

事業名称	不登校・ひきこもりの子供を持つ親たちへの「適切な対応と援助」を支援する事業～親の会を中心とした共生・協働による温かみのある地域社会づくりに向けて～
団体名・代表者	姫路マザーハーブの会 代表 住谷 庸子
協働の相手方	姫路市総合福祉会館

目的	全国の不登校・登校拒否の状況は、2019年の文部科学省発表では6年連続増加し過去最高の数となっている。この人数の増加は、そのまますべての子どもたちの生きづらさの増加と言える。そのような状況の中、子供の不登校で悩んでいる親たちは、相談する場所や必要な情報を得る機会が少ないのが現状である。そこで、「適切な対応と援助」について冊子を作成し、行政をはじめとする多くの関係機関と顔の見える関係を構築することにより、支援の中心となっている親たちを励まし子どもたちが安心できる温かみのある地域社会づくりを行うことを目的とする。
内容	不登校当事者の立場、親の立場、支援機関の立場、親の会を立ち上げ5年間の活動を通して学んだ「適切な対応と援助」についてまとめた冊子を作成する。 行政や支援機関と顔の見える関係を構築し、親の会の活動内容を周知する。不登校で悩む保護者や教育機関、更には地域住民を対象に学習の機会と支援機関の情報を得る機会を創出する。
事業経過	コロナ感染拡大により打合せやメンバー会議が全体で開催できなかったが、個別もしくはメール、電話等で行い、協働の相手先との打ち合わせ6回と協議メンバー会議1回を実施した。それぞれの立場で原稿を執筆してくださった方やアドバイザーの先生の思いを形にして、「適切な対応と援助」についてまとめた冊子を作成することができた。
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「適切な対応と援助」を学ぶことができる。</li> <li>・悩んでいる子供や親たちが一人で孤立しないで支援する居場所があることを知ることができる。</li> <li>・親の会以外の地域で親たちを支援することができる。</li> <li>・地域で多職種連携することで、子どもたちが安心できる社会づくりに繋がる。</li> <li>・日々悩んでおられる親たちや学校現場の先生方の援助の一助になる。</li> </ul>
今後の展望	今後「適切な対応と援助」についてまとめた冊子を基に、行政をはじめとする多くの関係機関と顔の見える関係を構築し、支援の中心となっている親たちを励まし子どもたちが安心できる温かみのある地域社会づくりに繋げたい。 また、不登校で悩む保護者や教育機関、更には地域住民を対象にした学習の機会と支援機関の情報を得る機会を創出したい。

### 【実施団体の事業総括・感想等】

このたびの冊子作成にあたり、認定NPO法人コムサロン21、ボランティア仲間、神戸新聞編集委員、おおさか教育相談所相談員、山梨県不登校の子どもを持つ親たちの会、日ノ本学園にご協力をいただきました。不登校問題は大きな社会問題です。ひとつの親の会ができることは限られています。今後「適切な対応と援助」を多くの方に知っていただき、支援の輪を広げていきたい。多くの方からご支援をいただき、冊子を完成することができたこと心より感謝申し上げます。

### 【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

新型コロナウイルスの影響による制限はあったものの、冊子を作成するという当初の目的は達成できました。冊子作成の過程を通して、提案団体が立ち上げからの5年間の活動の中で築いてきた支援の手法について、整理が行われたとの印象を受けました。

次年度は、提案団体が主催する県レベルでのフォーラムも企画されているとのことであり、不登校支援に関する議論に今回の冊子が大いに活用されるものと期待しています。